



We love 海青

2025年9月11日

学校便り No.14

校長 森 慎也

唐津市鎮西町横竹838番地9

学校教育目標 **夢や目標をもち、海青中を誇りに思う生徒の育成**

～笑顔と優しさあふれる学校に～

■ 伝統継承、そして進化 体育大会大成功！！

9月7日の体育大会は、「海青夏の陣 一生に一度の大合戦」のスローガンのもと、天候にも恵まれ、多くのご来賓の皆様、保護者の皆様、地域の皆様方にご参観いただき、無事に終わることができました。練習期間は、5日間でしたが、限られた時間の中で、実行委員長や各団の団長やリーダーを中心に、主体的に活動する場面を数多く見ることができました。練習での取組みが、そのまま本番で表現され、その結果、体育大会を成功させることができたように思います。そして、何より、体育大会を通して、また一人一人が大いに成長したように思います。



講評でも申しましたが、運動が苦手な人や体育大会へ気持ちがのらない人など、それぞれがそれぞれの思いを抱きながらの本番だったことと思いますが、全員が少しも手を抜くことなく、団のために精一杯走ったり、応援合戦では大声を出したり、舞ったりする姿がとても美しかったです。「本気で取り組む」「全力で臨む」決して簡単なことではないことを、海青中学校の生徒は全員成し遂げました。自分を精一杯褒めてほしいですし、自分に誇りをもってほしいと思います。また、全校生徒が同じ方向に向かって進むことができる、海青中学校にも誇りをもって欲しいです。3年生の学年種目の競技前には、お互いの健闘をたたえ合うために、エールの交換がありました。この光景は、勝敗よりも、学年、学校の団結をより一層望む思いから発せられたものだと感じました。体育大会を成功に導いてくれた3年生！ありがとう！とてもカッコ良かったです。そして、3年生の一生懸命な姿を見て、必至についていき、支えてくれた1、2年生！見事でした！今後の学校生活、学校行事がますます楽しみになりました。

■ 平和集会へ向けて

9月16日（火）の5・6時間目に、平和集会を行います。集会へ向けた準備として、学活の時間を利用して、「戦争と平和を見つめる絵本『わたしのやめて』」を生徒代表が各クラスで朗読しました。その後、「次の世代に向けて、平和な世界をつないでいくために自分たちに何ができるか」というテーマのもと、一人一人が平和への願いを書き、灯籠を作成しました。この取組は、昨年度も実施し、灯籠は、文化発表会当日に展示しましたので、本年度も展示予定です。



■ 秋の夜長に・・・。〇〇の秋

立秋（8月7日）が過ぎ、1ヵ月が過ぎましたが、まだまだ残暑ならぬ、夏真っ盛りの日々が続いています。近年の日本は、四季ではなく、二季（夏・冬）になっているようで、地球の環境がとても心配でなりません。とはいえ、日に日に日没時間が早くなり、日の出が遅くなり、朝晩は少しずつ涼しさを感じるようになってきました。「スポーツの秋」の象徴でもある体育大会は大成功に終わり、海青中の学校生活は、いつもの様子に戻りました。

さて、「秋の夜長」という言葉をよく耳にしますが、夜長は「だんだん暗くなる時間が早くなり、夜が長く感じられること」です。部活動終了時刻も、10月からは17時半と9月より30分早くなりますので、帰宅後の時間を有効に使って、何か一つでも「〇〇の秋」を実行して「秋の夜長」を楽しんでみてはどうでしょうか。世間でよく言われている「〇〇の秋」。勉強、読書、スポーツ、星空観測……。30分、いや15分でもいいですので、スマホから手を離して、自分だけの「〇〇の秋」を楽しんでみてはどうでしょうか。できれば、「**勉強、読書、スポーツ**」この3つは頭と心と体を鍛えるためにも取り組んでほしいと思います。

3年生50名へ…。～私の37年前を思い出して～

夏休みは終わりましたが、私が3年生の担任をした時は、夏休み前の学級通信に下の文章を掲載していました。（昨年度の学校だよりも、この記事は掲載しました。）一つ一つ学校行事が終わるにつれて、現実（受験）が近づいてきます。進路実現をするためには、現実から目を逸らさず、弱い自分と向き合い、戦い続けることが求められます。まだ遅くありません！秋の夜長を「**勉強の秋**」に重きを置き、来春大きな花を咲かせてほしいと思います。

37年前は私も皆さんと同じ中学3年生でした。私は3年生の夏の中体連までは、とにかく部活、部活、部活…の一色でした。（もちろん勉強もそこそこはやっていましたが…。）夏の中体連が終わると、「今まで部活を精一杯やってきたから今度は勉強しなくては…」と現実を見つめようとする自分と「いやいやまだ大丈夫だろう…。」と現実逃避する自分との間で、しばらくさまよっていたように記憶しています。このような心の状態だったので、恐らく勉強に取り組む姿勢は部活をやっていた時とほとんど変化していなかったと思います。しかし、そういう私を見ても母は何も言いませんでした。なぜ「勉強しなさい」と言わないのだろう？母の顔を横目で見ながらそう考えていました。数日経ったある日、私は夕飯を作っている母に思い切って尋ねることにしました。「なぜ勉強しなさいと言わないの？」母はしばらくたって、「あんなにサッカーに夢中になれるから、勉強にだって本気を出せばやれるんじゃない？それに、お母さんもあなたのサッカーには精一杯協力してきたから今度はあなたが協力してくれると思っているから…。」とだけ言ってまた夕飯の支度を始めました。その一言が私を変えた一言でした。